

教科	科目	単位数	学年	集団
国語	論理国語	2	3年	総合コース

使用教科書	副教材等
『探究 論理国語』(桐原書店)	『現代文キーワード読解』(Z会)

<p>科目の目標</p> <p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容への取り組み 課題、提出物の内容 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りの記述 定期テスト 発問への解答 小テスト

学習計画				評価の観点		
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	①	②	③
一学期中間テスト	文章の要旨を読む	オブジェとイメージ	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらい要旨を把握することができる。	○	○	
	根拠をもって書く	知的創造のために	情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることができる。		○	○
一学期期末テスト	新しい見方を読む	ファンタジー・ワールドの誕生	人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができる。	○	○	
	構成や展開を工夫しながら書く	霧の風景	立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができる。		○	○
	吟味しながら読む	市民社会化する家族	主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができる。	○	○	
二学期中間テスト	題材を決めて書く	ポストモダンと排除射会	実社会に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めることができる。	○	○	
	複数の資料をもとに読む	「貫之は下手な歌よみ」か?	設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができる。		○	○
	表現を工夫して書く	日本文化私観	個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫することができる。	○	○	
二学期期末テスト	吟味しながら書く	沙魚	多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができる。	○	○	
	評価しながら読む	侏儒の言葉	文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができる。		○	○
学年末テスト	助言を踏まえて書く	真理の探求と民主主義	文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることができる。	○	○	
	資料に注目して読む	地図の想像力 —— ボードリヤールの寓話	関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができる。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
国語	文学国語	3	3年	総合・美術コース

使用教科書	副教材等
探求 文学国語(桐原書店)	

科目の目標 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。
② 思考・判断・表現	「書くこと」「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	
・学習内容への取り組み ・課題、提出物の内容	・振り返りの記述 ・定期テスト ・発問への解答 ・小テスト

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期中間テスト	語り手の視点や場面の設定の仕方などについて評価することを通して、文章の内容を解釈する	愛のサーカス	物語の展開を基に、作品の持つ寓意について説明することができる。	○	○	○
	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉える	檸檬	「私」の心身の状態によって、事物の捉え方がどのように変化しているか捉えることができる。	○	○	○
一学期期末テスト	作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深める	変身 山月記	「変身」とそれ以外の変身物語とを比較し、共通点と相違点について考察することができる。	○	○	○
	選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にする	客ざらい エッセイを書く	日常生活の事物や体験を題材としてエッセイを書くことができる。	○	○	○
二学期中間テスト	他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察する	冬眠 ●(大きなピリオド)	草野心平の詩とそれを踏まえた谷川俊太郎の弔辞を読み、「冬眠」で表現されていることは何か考察することができる。	○	○	○
	文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察する	畜犬談	犬に対する「私」の考えや行動を踏まえて、「私」がどんな人物か考え、意見を述べ合うことができる。	○	○	○
	文体の特徴や修辭の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫する	文学評論Ⅰ	詩を創作し、修辭の働きを考慮して推敲することができる。	○	○	○
二学期期末テスト	作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するもの見方、感じ方、考え方を深める	舞姫	「豊太郎」の言動に表れている「出世」に対する意識を読み取り、自分自身の考えと比較することができる。	○	○	○
	読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫する	文学評論Ⅱ	本文の内容を踏まえ、自分で選んだ和歌や漢詩を工夫して現代語に翻訳することができる。	○	○	○
学年末テスト	設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のもの見方、感じ方、考え方を深める	短歌一寺山修司十首	寺山修司による複数の短歌を読み、その作風について評価する文章が書ける。	○	○	○
	読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直す	短編小説を書く	テーマを決めて書いた短編小説を読み合い、評価し合うことができる。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
国語	古典探究	3	3年	総合コース 選択

使用教科書	副教材等
『古典探究 古文編』、『古典探究 漢文編』 大修館書店	『体系古典文法』数研出版 『読んで見て見える重要古文単語315』桐原書店 『新明説漢文』尚文出版

科目の目標
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2)論理的に考える力や深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとしている。
② 思考・判断・表現	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容への取り組み ・課題(パフォーマンス課題等も含む)、提出物の内容 ・定期テスト ・振り返りの記述 ・小テスト

学習計画				評価の観点		
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	①	②	③
一学期 中間 テスト	説話の展開を的確に捉える	今昔物語集「馬盗人」	頼信・頼義父子の心理と行動を、時系列に沿って整理することができる。	○	○	○
	古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える	十八史略「水魚の交はり」	本文の末尾における劉備の心情を説明することができる。	○	○	○
一学期 期末 テスト	書き手の考えを捉えて文章の内容を解釈する	枕草子 「うれしきもの」「この草子、目に見え心に思ふことを」	文章に表れている清少納言の考えや意図を読み取る。	○	○	○
	漢詩の構成について評価する	杜甫「石壕吏」 白居易「売炭翁」	一句の字数、句数、押韻などを近体詩と比較し、評価する。	○	○	○
二学期 中間 テスト	他の作品との関係を踏まえて読む	紫式部日記 「和泉式部と清少納言」 無名草子 「紫式部のこと」	紫式部による同時代の人々への評価と、後世の人々による紫式部への評価とを比較し、共通点と相違点を考える。	○	○	○
	作品の内容を自分の知見と結びつ	論語「過猶不及」 東照宮御遺訓	二つの文章における考えの違いを読み取り、自分の考えをまとめる。	○	○	○
二学期 期末 テスト	作品に表れているものの見方を踏まえ、自分の考えを広げる	源氏物語 「紫の上の死」	臨終に近い紫の上の行動について、自分の考えをまとめる。	○	○	○
	関心を持った事柄に関する文章を基に、自分の考えを深める	白居易「長恨歌」 長恨歌と日本の文学	「長恨歌」の影響を受けた日本文学作品の中から一つを選び、その関係について自分の考えをまとめる。	○	○	○
学年 末 テスト	文章を多面的・多角的な視点から評価することで、考えを深める	大鏡「肝だめし」 山本健吉「二つの教養」	「大鏡」における藤原道長の描写について述べた文章を読み、現代における教養について考えを深める。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
公民	政治・経済	3	3年	総合コース

使用教科書	副教材等
最新政治・経済(実教出版)	テーマ別資料 政治・経済2025(東京法令出版) 最新政治・経済 演習ノート(実教出版)

<p>科目の目標</p> <p>1. 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。</p> <p>2. 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養わせる。</p> <p>3. よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めさせる。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。
② 思考・判断・表現	現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとしている。
評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト 小テスト 振り返りの記述内容 	<ul style="list-style-type: none"> 課題、レポートなどの記述内容 グループワーク、プレゼンテーションなどの活動に対する取り組み

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期 中間テスト	現代日本の政治	民主政治、法、世界の政治制度、日本国憲法(成立過程、基本原理、自由権、平等権、社会権、参政権、請求権、新しい人権)、人権の国際化	日本国憲法の基本原理と人権について、民主政治の諸原理にも着目しながら理解している。	○		
			基本的人権や法の支配の重要性について、歴史的背景にも言及しながら考察し、それらを適切に表現している。		○	
一学期 期末テスト	現代日本の政治	平和主義、日米安保、国会、内閣、裁判所、地方自治、政党政治、選挙制度、世論と政治参加	公共の福祉について主体的に追究することを通して、個人と個人の権利の衝突を調整の方法を社会生活に生かそうとしている。			○
			日本国憲法の平和主義の内容と日米安保体制が生まれた背景、日本の統治機構と国政・地方自治、選挙制度について理解している。	○		
二学期 中間テスト	現代の日本経済	経済思想、市場機構、企業、国民所得と経済成長、金融、財政、戦後日本経済史	教科書の記述の内容理解を踏まえたうえで、平和主義や統治機構、地方自治、選挙について多面的に考察し、適切に表現している。		○	
			日本の政治制度を理解したうえで、身近な地域の興味関心を持ち、人口動向が地域に与える影響や一極集中にともなう課題の解決策などを積極的に追究している。			○
			生産・分配・消費、希少性、トレードオフ、機会費用など、経済の根本的な概念について理解している。	○		
			資本主義経済の成立以降、社会がいかに変容し、それに伴い経済制度がどのように展開していったか、企業・政府の役割の変化と関連させて考察している。		○	
			経済成長による経済的な豊かさと幸福について、数値化することが困難な経済活動や生活の諸行動をどのように評価するべきかという観点から、主体的に考えを導きだそうとしている。			○

二学期期末テスト	現代の日本経済	中小企業、農業、消費者問題、公害・環境問題、労働問題、社会保障	典型的な消費者問題や悪質商法にはどのようなものがあるかなど、経済社会の一員として必要な知識を有している。	○		
			人口減少社会が直面する経済的課題について協働的に考察したうえで、そのための経済政策を選択・判断し、表現している。		○	
			よりよい社会の実現のために、他者との協働もはかりながら、経済学の視点から多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。			○
学年末テスト	現代の国際政治	国際社会と国際法、国際連合、人種・民族問題、軍拡・軍縮、日本の外交と国際関係	領土問題など、国際問題がなぜ生じるのか、また、どのように解決することが望まれているのかを理解している。	○		
			国連改革・安保理改革の必要性など国際社会が抱える政治的問題について、協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。		○	
			国際貢献について主体的に追究し、政府レベルや企業レベル、市民レベルの観点から、課題を意欲的に解決しようとしている。			○
現代の国際経済	貿易と国際収支、外国為替市場、戦後国際経済史、地域経済統合・グローバル化、新興国・途上国、地球環境問題、資源・エネルギー、経済協力と日本の役割	円高や円安が日本経済に与える影響について、輸入業者や輸出業者の具体的な取引をもとに理解している。	○			
		グローバル化と地域的経済統合など、賛否の分かれる国際経済上の問題に対して、自由と公正の観点から協働的に考察し、適切に表現している。		○		
		世界の貧困状況やそれを解消するための取り組みについて興味関心をもち、「国際経済格差の是正を探究するための意欲を高めている。			○	

教科	科目	単位数	学年	集団
数学	数学 I A演習	2	3年	総合コース 選択

使用教科書	副教材等
	Study-Upノート 数学 I +A (数研出版)

科目の目標
<p>(1)数と式、図形と計量、2次関数、データの分析、図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に着ける。</p> <p>(2)命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて変形する力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力、図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。</p> <p>(3)数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	数と式、図形と計量、2次関数、データの分析、図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に着ける。
② 思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて変形することができる。図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができる。関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察することができる。不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断することができる。数学と人間の活動との関わりに着目し事象に数学の構造を見だし、数理的に考察することができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。

評価方法
<p>知識・技能の評価:テスト、小テスト、レポート課題の点数をもとに評価する。</p> <p>思考・判断・表現の評価:テスト、小テストの点数、レポート課題の点数をもとに評価する。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度:知識・技能や思考・判断・表現の評価をふまえながら、テストの点数、授業内でのレポートへの取り組み方、授業後の振り返り等もとに評価する。</p>

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期中間テスト	(数学 I)	・ 式の計算	二次の展開公式が理解できる。	○	○	○
	数と式	・ 因数分解	因数分解の公式の理解ができる。	○	○	○
	(数学 I)	・ 2次関数とそのグラフ	関数のグラフを理解できる	○	○	○
	2次関数	・ 2次関数の値の変化	放物線のグラフを理解し最大値、最小値を求めることができる	○	○	○
一学期期末テスト	(数学 I)	・ 正弦定理、余弦定理	正弦定理、余弦定理を理解し、問題を解くことができる	○	○	○
	図形と計量	・ 三角形の面積	三角形の面積を求めることができる	○	○	○
二学期中間テスト	(数学 I)	・ データの相関	分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその使い方を理解できる。	○	○	○
	(数学A)	・ 場合の数	確率の意味や基本的な法則についての理解ができる。	○	○	○
	場合の数と確率	・ 確率	期待値の計算ができる。	○	○	○
二学期期末テスト	(数学A)	・ 三角形・四角形の性質	三角形の基本的な性質を理解できる。	○	○	○
	図形の性質	・ 円と直線	円の基本的な性質が理解できる。	○	○	○

テスト		・ 空間図形	いろいろな立体の体積を求めることができる。	○	○	○
学年末テスト	総合演習		物事を数学的に置き換えて多面的に考察しようとする態度	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
数学	発展数学 I A研究	2	3年	総合コース 選択

使用教科書	副教材等
	Study-Upノート 数学 I +A(数研出版)

<p>科目の目標</p> <p>(1)数と式、図形と計量、2次関数、データの分析、図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に着ける。</p> <p>(2)命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて変形する力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互にに関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力、図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。</p> <p>(3)数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	数と式、図形と計量、2次関数、データの分析、図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に着ける。
② 思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて変形することができる。図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができる。関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互にに関連付けて考察することができる。社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察することができる。不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断することができる。数学と人間の活動との関わりに着目し事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察することができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。

評価方法
知識・技能の評価:テスト、小テスト、レポート課題の点数をもとに評価する。 思考・判断・表現の評価:テスト、小テストの点数、レポート課題の点数をもとに評価する。 主体的に学習に取り組む態度:知識・技能や思考・判断・表現の評価をふまえながら、テストの点数、授業内でのレポートへの取り組み方をもとに評価する。

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期中間テスト	数と式	式の計算	不等式の性質を基に一次方程式を解く方法を考察する。	○	○	○
			様々な事象を数学的に捉え、一次不等式を問題解決に活用する。	○	○	○
	論理と集合	集合 命題	集合と命題に関する基本的な概念を理解する。	○	○	○
			集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明する。	○	○	○
	2次関数	2次関数とそのグラフ	2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。	○	○	○
2次関数の式とグラフの関係について、多面的に考察する。			○	○	○	
一学期期末テスト	2次関数	2次関数の値の変化	2つの数量の関係に着目し、様々な事象を数学的に捉え、問題を解決し、その過程を振り返って数学的な特徴や他の事象との関係を考察する。	○	○	○
			2次不等式の解を2次関数のグラフをもとに求める。	○	○	○
	図形と計量	三角比	鋭角の三角比の意味と相互関係について理解すること。	○	○	○
			三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鈍角の三角比の値を求める。	○	○	○
二学期中	図形と計量	正弦定理・余弦定理	正弦定理や余弦定理を用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求める。	○	○	○
			様々な事象を数学的に捉え、問題を解決し、その過程を振り返って数学的な特徴や他の事象との関係を考察する。	○	○	○

間 テ ス ト	場合の数と確率	場合の数	集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解する。	○	○	○
			順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求める。	○	○	○
二 学 期 期 末 テ ス ト	場合の数と確率	確率	確率の意味や基本的な法則について理解を深め、確率や期待値を求める。	○	○	○
			事象に着目し、場合の数や確率を求める方法を多面的に考察する。	○	○	○
	図形の性質	平面図形	三角形や円、空間図形に関する基本的な性質について理解する。	○	○	○
		空間図形	図形の間にある関係や性質に着目し新たな性質を見だし、論理的に考察する。	○	○	○
学 年 末 テ ス ト	数学と人間の活動	倍数と約数 ユークリッドの互除法	ユークリッドの互除法を応用して問題解決できる力。	○	○	○
	課題研究		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	科学と人間生活	2	3年	総合・美術コース

使用教科書	副教材等
科学と人間生活(数研出版)	科学と人間生活 準拠 サポートノート(数研出版)

<p>科目の目標</p> <p>自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見直しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 ・観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。 ・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作や観察の基本的な技術の習得ができています。
② 思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしている。

評価方法
<p>知識・技能: 定期テスト、授業内アンケート、レポート、ノート等</p> <p>思考・判断・表現: 授業プリント、グループワークの取組、レポートの考察等</p> <p>主体的に学習に取り組む態度: 授業振り返りシート、授業内アンケート、課題や提出物の取組状況等</p>

学習計画								
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点				
				①	②	③		
一学期 中間テスト	科学技術の発展	人間生活の歴史	・灯り、通信、交通、コンピュータ、農業、食品、医療、防災、エネルギーの歴史について時系列的に理解する。	○				
			・生命活動にはエネルギーが必要であることを理解できる。				○	
			・科学技術が時代とともに進歩し、人間生活を豊かで便利にできたことや人間生活に不可欠であることを理解できる。					
		・科学技術の発展の歴史について、意欲的に理解しようとしている。			○			
一学期 期末テスト	物質の科学	材料とその利用 衣料と食品	・身のまわりのプラスチックの利用例について理解する。	○				
			・3Rの考え方について理解する。				○	
			・プラスチックの用途について、プラスチックの性質と関連させて説明できる。					
		・材料とその再利用について学習した内容を、日常生活における身近な製品や環境問題などと結びつけ、意欲的に理解しようとしている。			○			
二学期 中間テスト	生命の科学	ヒトの生命現象 微生物とその利用	・ワクチンや抗生物質などの医薬品の製造に微生物が関わっていることを理解する。	○				
			・微生物の科学史についての学習を通して、目に見えない微生物を調べる方法について考察できる。				○	
			・微生物が人間生活のさまざまな場面に役立っていることを意欲的に理解しようとしている。					
						○		
二学期 期末テスト	光や熱の科学	光の性質とその利用 熱の性質とその利用	・光の色と波長の関係について理解する。	○				
			・電磁波とは何かについて理解する。				○	
			・光の3原色から白色の光をつくり出すにはどうすればよいか説明できる。					
		・光の性質とその利用についての学習内容を、日常生活や身近な現象に結びつけ、意欲的に理解しようとしている。			○			
三学期 学年末テスト	宇宙や地球の科学	宇宙や地球の科学 自然景観と自然災害	・集中豪雨や台風によって起こる災害について理解する。	○				
			・集中豪雨や台風によって起こる災害から身を守る方法について考察できる。				○	
			・気象現象に興味をもち、季節によって起こりやすい気象災害と関連づけて、意欲的に理解しようとしている。					
						○		

教科	科目	単位数	学年	集団
保健体育	体育	2	3年	3学年

使用教科書	副教材等
	ステップアップ高校スポーツ(大修館書店)

<p>科目の目標</p> <p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	<p>運動の合理的、計画的な実践を通して、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動の多様性や体力の必要性について理解している。 ・運動が豊かに継続することができるようにするための技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	<p>自己や仲間の課題や豊かなスポーツライフを継続するための課題を発見し、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合理的、計画的な解決に向けて思考し判断する力を身に付けている。 ・解決の仕方や気付いたこと等について自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	<p>運動における競争や協働の経験を通して、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を高めようとしている。 ・健康・安全を確保したり、運動を主体的に取り組もうとしている。
評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・運動の知識・技能の点検、確認、分析(スキルテスト、定期テスト、発表会、学習プリント・ノート等) ・記述の点検、確認、分析(学習プリント・ノート、グループワーク等) ・取組状況の観察、確認(グループ活動の姿勢、安全性の確保、授業への取組状況 等) 	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	体づくり運動	体ほぐしの運動 (集団行動、体ほぐし)	集合、整頓、列の増減、方向変換などの仕方を理解し、行動できる。	○		
			定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることを理解できる。	○		
			いろいろな体ほぐしの運動を行うことを通して、気付いたり、仲間と関わりあったりしている。		○	
			集団行動や体ほぐし運動を自主的に取り組むとともに、健康・安全を確保し活動している。			○
5	球技	ネット型	選択した球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、学習した具体例を挙げている。	○		
			役割に応じて、捨ったりつないだり打ち返したりすることができる。	○		
			選択した球技について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。		○	
		ベースボール型	球技の学習に自主的に取り組もうとしている。			○
			身体の軸を安定させてバットを振りぬくことができる。	○		
			移動しながらボールを捕ること、一連の動きでねらった方向へ投げることができる。	○		
6	水泳	平泳ぎ、メドレー (スタート、ターン)	バット操作、ボール操作及びボールを持たないときの動きなどの改善についてについてのポイントを発見している。		○	
			自己やチームの課題の解決に向けて、自己の考えを述べたり相手の話を聞いたりしている。			○
			各種目で用いられる技術の名称やポイントを理解し、それぞれの技術を実践することができる。	○		
			合理的な動きと自己の動きを比較して、成果や改善すべきポイントを見付けることができる。		○	
			自主的に取り組むとともに、事故防止の心得を遵守し健康・安全を確保している。			○

7	体育理論	スポーツにおける技能と体力 スポーツにおける技術と戦術 技能の上達過程と練習	技能と体力の関係や高めるときに気を付けるべき点を説明できる。 技能の型の違いやそれぞれの練習のしかたを説明できる。 練習によって技能が上達すると、どのような特徴がみられるかをあげることができる。	○	○	○
9	体づくり運動	実生活に生かす運動の計画 (新体力テスト、体力を高める)	運動には体力向上の原則があることを理解し、運動のねらいやバランスを考え、自分にあった運動を計画し取り組むことができる。 運動のねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定することができる。 自主的に取り組むとともに、危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保すること。	○	○	○
10	陸上競技	短距離走	記録の向上につながる動きのポイントを理解し、技術と関連させた運動や練習を継続して行うことができる。 合理的なフォームを身に付けることでタイムの短縮を図ることができる。 自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。	○	○	○
		ハードル走	自主的に取り組むとともに、結果を冷静に受け止め、課題解決に向けて、お互いに助け合い、教え合おうとしている。	○	○	○
11	球技 ダンス	ゴール型 (男子)	スタートダッシュからリズムカルにスピードを維持しながらハードルを越えることができる。 ハードルを低く素早く越えながらタイムを短縮したり、競争したりすることができる。 自己や仲間の課題について、言葉や文章で表したり、他者に分かりやすく伝えたりしている。 自主的に取り組むとともに、結果を冷静に受け止め、課題解決に向けて、お互いに助け合い、教え合おうとしている。	○	○	○
		現代的なリズムのダンス (女子)	球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。 安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 自主的に取り組み、互いに助け合い、教え合おうとしている。	○	○	○
12	体育理論	効果的な動きのメカニズム 体カトレーニング 運動やスポーツでの安全の確保	ダンスには、その踊りの特徴と表現の仕方があることを理解している。 リズムの取り方や動きの連続のさせ方を組み合わせ、動きに変化を付けて踊ることができる。 ダンスの特徴に合わせて、よい動きや表現と自己や仲間の動きや表現を比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間と伝え合い、合意形成を図っている。 課題について、互いに助け合い教え合おうとしている。	○	○	○
			体の動きはどのようなしくみで開始され、持続していくのかを説明できる。 目的に応じたさまざまなトレーニングの方法を説明できる。 スポーツ活動中に起きる重大な事故をあげ、せおの発生原因と予防方法を説明できる。	○	○	○
1	陸上競技	長距離走	自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ることができる。 記録の向上に有効な練習方法のやり方について、自己の考えを伝えることができる。 一人一人の技能の違いに応じた課題に自主的に取り組んでいる。	○	○	○
2	球技	ゴール型	選択した球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。 安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 自主的に取り組み、互いに助け合い、教え合おうとしている。	○	○	○
2	体育理論	生涯スポーツの見方・考え方 ライフスタイルに応じたスポーツ スポーツを推進する取り組み 豊かなスポーツライフの創造	社会の変化にともなってスポーツの役割がどのように変化したのかを説明できる。 「する」スポーツライフスタイルについて例をあげ説明できる。 国内でスポーツを推進してきた従来の取り組みを説明できる。 豊かなスポーツライフを創造していくための課題について例をあげて説明できる。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
保健体育	体育(スポーツⅡ)	2	3年	総合・美術コース

使用教科書	副教材等

科目の目標
<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。</p> <p>(2) 球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツⅡを通してスポーツを推進及び発展するための事項を理解している。 ・体力や技能の程度、性別や目的、障害の有無など様々な違いを超えて、スポーツを楽しむために調整し合意したマナーを実践している。
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・発見した動きの改善点や、効果的な改善策について、活動場面で判断し仲間に伝えることができる。 ・体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともにスポーツⅡを楽しむための調整の仕方を見付けている。 ・多様(目的、年齢、性別、経験、障害の有無など)な参加者と共に運動するための調整の仕方や競技会の運営方法を提案している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・公正、協力、責任などのスポーツの持続可能性及び規範を遵守する社会の創造に寄与する学習に主体的に取り組もうとしている。 ・多様性・共生などのスポーツを通じた共生社会の実現に寄与する学習に意欲を高めようとしている。

評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・運動の知識・技能の点検、確認、分析(スキルテスト、定期テスト、発表会、学習プリント・ノート等) ・記述の点検、確認、分析(学習プリント・ノート、グループワーク等) ・取組状況の観察、確認(グループ活動の姿勢、安全性の確保、授業への取組状況 等)

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5	球技	ネット型からの選択	選択した球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、学習した具体例を挙げている。	○		
			役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。	○		
			選択した球技について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。		○	
6 7	球技	ゴール型からの選択	球技の学習に自主的に取り組もうとしている。			○
			選択した球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	○		
			安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	○		
9 10	球技	ベースボール型からの選択	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。		○	
			自主的に取り組み、互いに助け合い、教え合おうとしている。			○
			身体の軸を安定させてバットを振りぬくことができる。	○		
11 12	球技	ターゲット型からの選択	移動しながらボールを捕ること、一連の動きでねらった方向へ投げることができる。	○		
			バット操作、ボール操作及びボールを持たないときの動きなどの改善についてについてのポイントを発見している。		○	
			自己やチームの課題の解決に向けて考えを述べたり相手の話を聞いたりしている。			○
11 12	球技	ターゲット型からの選択	標的までの距離や方向、ボール等のスピードや回転をコントロールするための体の動きを中心に扱うことができる。	○		
			合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。		○	
			ルールや用具、競技人数や競技場所を変えて全員が楽しめるようにゲームを行うなど、多様な楽しさを味わう方法を発見している。		○	
			自主的に取り組み、互いに助け合い、教え合おうとしている。			○

1 2	球技	ゴール型からの選択	球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	<input type="radio"/>		
			安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	<input type="radio"/>		
			攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。		<input type="radio"/>	
			自主的に取り組み、互いに助け合い、教え合おうとしている。			<input type="radio"/>

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	音楽Ⅲ	2	3年	総合コース 選択

使用教科書	副教材等
Joy of MusicⅢ 教育芸術社	高校生のための音楽研究ノート

科目の目標 音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化を深く関わる資質、能力を次のとおり目指す育成することを目指す。 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解するとともに、創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫したり音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりすることができるようにする。 (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性磨き、音楽文化を尊重し、音楽によって生活や社会を明るく豊なものにしていく態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。
② 思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を感覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図を深めたり、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価方法	
ア 取り組みの観点 イ 演奏、作品の内容 ウ ワークシート等への記述内容 エ 提出物の内容 アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	曲想を感じ取って、曲にふさわしい発声で歌おう。	表現 歌唱 p.77～87	・曲の表現内容を理解し、創意工夫や表現上の効果を生かした歌唱表現するために必要な技能を身に付け、個性豊かに歌唱表現を創意工夫することができる。	○	○	○
	リズムの重なり合いや、音色の違いを感じ取ってアンサンブルを楽しもう。	表現 器楽 p.51～55	・曲の表現内容を理解し、創意工夫や表現上の効果を生かした器楽表現するために必要な技能を身に付け、個性豊かに器楽表現を創意工夫することができる。	○	○	○
6	音楽のよさや美しさを深く味わい、文化や芸術としての意味や価値を探ろう。	鑑賞 p.68～73	・音楽の美しさと音楽の構造との関わり及び、芸術としての音楽と文化的・歴史的背景、他の芸術や文化との関わりについて理解する。	○	○	○
	ポップスの特徴を理解して表情豊かに歌おう。	表現 鑑賞 p.64～67	・曲の表現内容を理解し、創意工夫や表現上の効果を生かした歌唱表現をするための技能を身に付けながら、個性豊かに歌唱表現を創意工夫することができる。 ・歌や歌うことと生活や社会との関わり及び、芸術としての音楽と文化的・歴史的背景、他の芸術や文化との関わりを理解する。 ・曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴くことができる。	○	○	○
2	表現を工夫してリコーダーを演奏しよう。	表現 器楽 p.56.57	・様々な音素材や様式、表現形態などの特徴について、表したいイメージと関わらせて理解する。 ・創意工夫や表現上の効果を生かした創作表現をするために必要な技能を身に付け、個性豊かに創作表現を創意工夫することができる。	○	○	○
	和楽器に親しみ、表現豊かに演奏しよう。	表現 器楽 p.53.54	・曲の表現内容や様々な表現形態による器楽表現の固有性や多様性について理解し、創意工夫や表現上の効果を生かした器楽表現をするために必要な技能を身に付け、個性豊かに器楽表現を創意工夫することができる。	○	○	○
11	オステナートをを用いた曲づくりや音素材の特徴を生かした作品作りをしよう。	表現 創作 p.35.36	・様々な音素材や様式、表現形態などの特徴について、表したいイメージと関わらせて理解する。 ・創意工夫や表現上の効果を生かした創作表現をするために必要な技能を身に付け、個性豊かに創作表現を創意工夫することができる。	○	○	○
	日本の伝統芸能や世界の諸民族の音楽を体験しよう。	表現 歌唱 表現 器楽 鑑賞 p.110～112	・曲の表現内容や歌や歌うこと、及び曲や演奏することと生活や社会との関わりについて理解する。 ・創意工夫や表現上の効果を生かした歌唱・器楽表現をするために必要な技能を身に付け、個性豊かに歌唱・器楽表現を創意工夫することができる。 ・芸術としての音楽と文化・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴くことができる。	○	○	○
1	3年間のまとめのコンサートを開こう	表現 歌唱 表現 器楽	・歌や歌うこと及び曲や演奏することと生活や社会との関わりを理解し創意工夫や表現上の効果をするために必要な技能を身に付け、個性豊かに演奏表現を創意工夫することができる。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	美術Ⅲ	2	3年	総合コース

使用教科書	副教材等
美術3(光村図書)	プリント

科目の目標 美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を工夫し、創造的に表すことができるようにする。 (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3) 主体的に美術の幅広い創作活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。
② 思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
評価方法	
ア創作への取り組み イ仕事の丁寧さ、作品の内容 エアイデアスケッチやワークシートへの記述内容 エ提出物の内容 アからエ これらを観点別に見取り総合的に評価する。	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	俯瞰で描く	A表現 B鑑賞 絵画 p.12～14	俯瞰で描いた作品を比べ鑑賞する。透明水彩絵の具及び不透明水彩絵の具のそれぞれの特性と制作の手順の違いや表現効果について理解し、紙質や地肌、絵肌などを生かした表現技法を工夫することができる。	○	○	○
5	鉛筆の可能性	A表現 デッサン p.8.9	鉛筆による表現の豊かさを感じ取り、鉛筆の特性を生かしてあらわす。	○	○	○
6	鑑賞及び模写 フリーダ・カーロ	A表現 B鑑賞 絵画 p.10.11	フリーダ・カーロの作品を鑑賞し、カーロの生涯や作品を知り、作品に込められた思いや表現の工夫を感じ取る。 模写をすることで作品をより深く理解するとともに配色や筆のタッチを学びとる。	○	○	○
9	イラストレーション アナログ	A表現 絵画 デザイン p.30～35	技法基礎・色彩基礎 分割や配置などの工夫により、変化と統一のある構成ができる。 Photoshopを使ったデジタル作品を作る。 ソフトの操作を覚え、デジタル画面上でのペンタブを使ったイラストレーションの作成ができるようになる。	○	○	○
10	デジタル					
11	鑑賞及び名画模 写日本画伊藤若 冲	A表現 B鑑賞 絵画	名画を鑑賞し、その時代に作者がどのような意図や心情で描いたかを知る。その後その作品を模写することによって画面構成の意図や絵画的技法を習得する。	○	○	○
12						
1	抽象表現 ものからの問いかけ	A表現 p.62.63	抽象絵画とそれらを描いた作家について知り、色や構図を参考に自分なりの抽象表現で絵画作品を制作する。 抽象画の成り立ち、作者の意図と創造的工夫などを理解し、創造につなげられる。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	書道Ⅲ	2	3年	総合コース

使用教科書	副教材等
書Ⅲ 光村図書	

<p>科目の目標</p> <p>書道の幅広い活動を通して、書に関する見方、考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書の伝統と文化と幅広く関る資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1)書の表現方法や形式、多様性などについて理解するとともに、。書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ表す。</p> <p>(2)書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統・文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3)主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとする。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	書の表現方法や形式、多様性などについて理解している。書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ表している。
② 思考・判断・表現	書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統・文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりする。
③ 主体的に学習に取り組む態度	書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
評価方法	
ワークシートの記入内容、鑑賞カードの記入内容、発表の内容、作品・授業に取り組む姿勢などを基に、総合的に評価する。	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	書論とは	書論とは	各書体の典型的な字形と用筆について理解し、技法を習得する。	○	○	
5	漢字の書の多様性を楽しむ	篆書 隸書 行書 草書 楷書	各古典の書風を比較し、表現効果を考え取る。	○	○	
6		創作する	漢字の書体の変遷について理解を深める。	○	○	
7				○		○
9	仮名の書の多様性を楽しむ	平安時代・中・後期 鎌倉時代以降		○		○
10		創作する	感興や意図に応じて素材を選び、个性的に表現する。		○	○
11	漢字仮名交じりの書を楽しむ	未来への決意を書こう	高野切第一種の書風の特徴を捉え、臨書する。	○		○
12		生活の中の書	創作を通して、充実感や喜びを味わう。		○	○
1	刻字を楽しむ	刻字を楽しむ	古典の書風を生かすことで、多様な表現が生まれることを理解する。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語(英語)	英語コミュニケーションⅢ	4	3年	総合・美術コース

使用教科書	副教材等
Power On English Communication Ⅲ	Power On English Communication Ⅲ WORKBOOK

科目の目標 (1)聞くこと 日常的话题について、話される語句や文、情報量において多くの支援を活用すれば必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。 (2)話すこと[やりとり] 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝えあったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。 (3)読むこと 日常的话题について、使用する語句や文、情報量において多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。 (4)書くこと 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めている。 ・聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する。 ・これらを活用して、適切に表現したり伝え合ったりする。
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価方法	
ペーパーテスト パフォーマンステスト	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	教育・新聞記事	Lesson 1	新しい図書館の在り方について、文章を読み、概要を理解することができる。		○	
5	スポーツ・伝記	Lesson 2	大谷選手へのインタビューを考え、ペアで演じることができる。		○	○
6	自然科学・記事	Lesson 3	興味のある職業について調べ、ALTに伝えることができる。		○	
7	自然・雑誌記事	Lesson 4	松本紀生さんの写真について、好きな理由と共に伝え合うことができる。		○	○
9	科学・学校だより	Lesson 5	イグ・ノーベル賞についての文章を読み、概要を理解することができる。		○	
10	異文化理解・論説文	Lesson 7	意見文を読み、主張とそれに対する根拠や理由を読み取ることができる。	○		
11	人権・人物伝	Lesson 8	SDGsに関するテーマを取り上げ、チラシやポスターを作り、紹介し合うことができる。		○	○
12	国際社会・論説文	Lesson 9	論説文において、ディスコースマーカーを意識して読むことができる。	○		
1	動物・エッセイ	Lesson 10	エッセイにおいて、ディスコースマーカーを意識して読むことができる。	○		

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語(英語)	英語コミュニケーションⅡ 演習	3	3年	総合コース 選択

使用教科書	副教材等
Power On English Communication Ⅱ	Smart Choice: 4th Edition Level 1 Student Book with Online Practice

科目の目標 (1)聞くこと 日常的话题について、話される語句や文、情報量において多くの支援を活用すれば必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。 (2)話すこと[やりとり] 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝えあったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。 (3)読むこと 日常的话题について、使用する語句や文、情報量において多くの支援を活用すれば必要な情報を読み取り書き手の意図を把握することができるようにする。 (4)書くこと 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めている。 聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する。 これらを活用して、適切に表現したり伝え合ったりする。
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価方法	
ペーパーテスト パフォーマンステスト	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	Which one is cheaper?	Unit 7	自分の好きな服装やブランドについて、紹介し合うことができる。		○	○
5	They're very friendly.	Unit 8	クラスメイトについて、性格や興味のあることを踏まえて紹介することができる。		○	○
6	You can visit the zoo.	Unit 9	ある都市についてのブログを読み、要点を理解することができる。	○	○	
7			自分たちの住んでいる町について、ブログに投稿することができる。		○	
9	Is there a coffee shop?	Unit10	ある町や空港についてのパンフレットを読み、要点を理解することができる。	○	○	
10			自分たちがよく行く場所や建物について、パンフレットを作成し、発表することができる。		○	
11	I had a good time.	Unit 11	旅行先で起こったことについての対話を聞き、概要を理解することができる。	○	○	
12			今までで一番楽しかった休暇について、写真やイラストを見せながら友人に説明することができる。		○	○
1	I'm going to go by car.	Unit 12	卒業後に行きたい場所について、旅行計画を作り、紹介し合うことができる。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
家庭	生活と福祉	2	3年	総合コース

使用教科書	副教材等
	生活と福祉(実教出版)

<p>科目の目標</p> <p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、高齢者の自立生活支援と福祉の充実を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)高齢者の健康と生活、介護などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)高齢者の健康と生活、介護などに関する課題を発見し、高齢者の自立生活支援と福祉の充実を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3)家族や地域の人々の豊かな生活の実現を目指して自ら学び、高齢者の生活の質の向上と自立生活支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
--

① 知識・技術	ライフステージごとの心身の特徴や健康管理について、具体的な事例を通して理解している。また、高齢者福祉に関する法規や制度・サービスについて背景や概要を理解しており、介護予防の考え方にもとづき、自立生活支援と介護に関する基礎的な知識を習得し、実践的な技術が身についている。
② 思考・判断・表現	高齢期にいたるまでの健康づくりについて、さまざまな健康観から考えることができる。また、介護や看護について課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	さまざまな人々と協働し、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域の高齢者の生活に関心をもって積極的に関わろうとしている。

<p>評価方法</p> <p>・授業に対する姿勢(発表の内容やプリントへの取り組み状況)</p> <p>・提出物(家庭生活に関する課題)</p> <p>・ホームプロジェクト(レポートや製作物)</p> <p>・実習・実技(技能・製作物や作品)</p> <p>・定期試験(学習内容の理解・定着度)</p>

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期 中間 テスト	健康と生活	健康に関する諸概念	・QOLの概念や、QOLの向上のための考え方を知る。	○		
		ライフステージと健康管理	・各ライフステージにおける健康課題や目標を知る。	○		
	少子高齢化の現状と高齢者の特徴	少子高齢化の現状	・日本の高齢化の要因と推移について理解する。	○		
		家族・地域の変化	・高齢化や世帯構成の地域差を理解し、地域の実情に即した福祉サービスを考える。		○	
一学期 期末 テスト	高齢者の自立支援	高齢者の心身の特徴	・加齢に伴う心身の変化と個人差について知る。	○		
		高齢者の病気	・高齢者の恒常性機能と老年病について知る。	○		
	高齢者支援の法律と制度	高齢者にみられる主な疾患や症状	・麻痺・視覚障害、認知症の症状とその対応を知る。		○	
		高齢者の生活課題と施策	・高齢者の主な生活課題について知る。	○		
二学期 中間 テスト	介護の実習	人間の尊厳尊厳	・事例から高齢者の自立生活を支える地域の役割について理解している。			○
		高齢者介護の考え方	・介護予防や家族への支援を理解し、高齢者介護の考え方を考察する。		○	
	高齢者支援の法律と制度	コミュニケーションと介護	・言語障害・麻痺・視覚障害、認知症などがある高齢者の介護を理解する。			○
		社会保障・社会福祉制度のしくみ	・高齢社会に対応した社会保障や社会福祉制度を知る。	○		
二学期 期末 テスト	介護の実習	介護保険制度のしくみ	・介護保険制度のおもな介護サービスやサービス利用までの流れについて理解する。			○
		さまざまな高齢者支援のしくみ	・高齢者支援のさまざまな制度について知る。	○		
	介護の実習	地域共生社会	・地域包括ケアシステムの概要を知り、地域共生社会の考え方を理解する。			○
		体位変換	・ボデメカニクスの基本原則を知る。	○		
二学期 期末 テスト	介護の実習	歩行介助	・歩行の意義と目的を理解する。			○
		車いすの移乗・移動の介護	・場面による移乗方法を体験する。			○
	介護の実習	食事の介護	・高齢者の「食べる」行為を考察する。		○	
		ベッドメイキング	・シーツ交換を体験する。			○
二学期 期末 テスト	介護の実習	衣服の着脱の介護	・着脱介護を体験する。			○
		からだの清潔の介護	・からだの清潔の意義と目的を理解する。	○		
	介護の実習	排泄の介護	・排泄の意義と目的を理解する。	○		
		褥瘡の予防	・褥瘡予防を考える。		○	
二学期 期末 テスト	介護の実習	災害時の介護	・避難所でも利用できる生活支援技術を体験する。			○
		家庭看護の意味	・家族が病気になることときの基本的な看護の心構えを理解する。	○		
	介護の実習	バイタルサイン(生命徴候)の見方	・体温・脈拍・呼吸・血圧測定など看護の基本的な技術を習得する。		○	
		口腔の清潔	・口腔内の方法を知り、口腔ケアの基本的な介助のしかたを習得する。		○	
二学期 期末 テスト	介護の実習	誤嚥と窒息	・窒息事故の予防の方法や窒息時の対処法について理解する。	○		
		転倒と骨折	・高齢者の転倒と骨折について理解する。	○		
	介護の実習	低温やけど(低温熱傷)	・低温やけどの注意点を知り、低温やけどの予防と対処法を習得する。		○	
		脱水	・脱水の確認方法を知り、脱水の予防と対処法を習得する。		○	
二学期 期末 テスト	介護の実習	熱中症	・熱中症の予防と対処法を習得する。		○	
		高血圧と低血圧	・血圧の変化と注意点を知り、高血圧・低血圧の予防と対処法を習得する。		○	
	介護の実習	糖尿病	・糖尿病の治療と看護の注意点を知り、対処法を習得する。		○	
		生活支援の考え方	・高齢者が地域で自立した生活を送ることができるように、衣類の洗濯や補修、調理、買い物、掃除、消費者被害など生活援助に関する技術を習得する。		○	
学年 末 テスト	生活支援	レクリエーション	・実践側から、レクリエーションを盛り上げることの留意点について考察する。		○	
		高齢者福祉施設の見学	・見学を通して高齢者福祉施設、高齢者の生活をより理解する。	○		
		ボランティア活動	・ボランティア活動への参加を通して高齢者に関する知識や技術をいかに。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
家庭	保育基礎	2	3年	総合コース 選択

使用教科書	副教材等
保育基礎(教育図書)	

<p>科目の目標</p> <p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を目指す。</p> <p>(1)保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3)子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

<p>評価の観点とその趣旨</p> <p>① 知識・技術 保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようとしている。</p> <p>② 思考・判断・表現 子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決しようとしている。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 子どもの健やかな発達を目指して学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。</p>
--

<p>評価方法</p> <p>・授業に対する姿勢(発表の内容やプリントへの取り組み状況)</p> <p>・提出物(家庭生活に関する課題)</p> <p>・ホームプロジェクト(レポートや製作物)</p> <p>・実習・実技(技能・製作物や作品)</p> <p>・定期試験(学習内容の理解・定着度)</p>

期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期中間テスト	保育の意義	保育とは何か 育ての心	・保育には、子どもの生涯の人格形成の基礎を培う重要な意義があることを理解する。 ・保育者のあるべき姿とはどのようなものかを考える。	○	○	
	保育の環境	子どもが育つ環境 家庭での養育	・家庭及び幼稚園、保育所や認定こども園について、それぞれの養育・保育環境の特徴や役割を理解する。	○	○	
		さまざまな保育の場 保育ニーズの高まりと課題 集団保育の重要性	・現代の子どもや子育て家庭を取り巻く環境の問題、多様な保育のニーズに関する課題を知り、子どもの健やかな発達のための適切な保育環境について考える。	○		○
	保育の方法	保育の方法の基本	・子どもの成長には、子どもを受け止め理解してくれる大人の存在が不可欠であることを知る。 ・保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について調べ、子どもの発達における保育・教育の目的や目標について理解する。 ・発達過程の特徴と、段階に応じた保育の方法を理解する。	○		○
一学期期末テスト	子どもの発達の特性	発達とは何か 発達の共通性 発達の個人差 発達と環境	・ライフステージにおける乳幼児期の位置づけを確認し、生涯発達のために乳幼児期が大切であることを理解する。 ・子どもが主体的に環境にはたらきかけ、発達していくために、保育者などが応答的に関わることが大切であることを理解する。	○		○
	乳幼児の発育と発達	乳幼児期の発育 乳幼児期の生理的特徴 乳幼児期の発達の特性	・乳幼児期の発育について、各部位別の目安や評価法を知る。また、大人などと比較して、乳幼児期の発育の特性を理解する。 ・愛着関係の形成過程を学び、その重要性を理解する。	○		○
	子どもの健康と生活	子どもの養護 生活習慣の習得	・生活習慣を題材にした絵本などから、生活習慣の習得を促すにはどのような工夫が必要かを考える。	○		○
	子どもの食事	栄養と食生活 乳児の食事 離乳 幼児の食事	・近年の幼児に関する食事習慣や健康面の課題を知り、家庭や保育施設でどのようなことが求められているかを考察する。 ・幼児食実習や幼児用おやつづくりなど、実習を通じて子どもをイメージする。		○	○
二学期中間テスト	子どもの衣服と寝具	子どもの衣服の役割 子どもの衣服の選び方 子どもの衣服の調節 おむつ 子どもの寝具など	・乳幼児に適した被服の素材・型を知り、適切な被服計画ができるようになる。 ・衣服の選択を間違えると、思わぬ事故につながる可能性があることと知り、安全な衣生活について考えることができる。 ・適切な寝具やおむつの使い方などを理解する。	○		○
	子どもの健康と安全	保育者の役割 子どもの病気の特徴 子どものおもな病気 病気の子どもの看護の方法 病気の予防	・子ども特有の病気について知り、予防接種の大切さを理解する。また、病気の際に落ち着いて対処するための知識を得る。 ・住まいに潜む危険について理解し、家庭や保育施設など身近な場所の危険についても考えることができる。	○		○
		子どもの安全 子どもの成長と遊びのなかの危険 応急処置と救急用品	・発達障がいや医療的ケアをはじめとする、子どもの健康課題について、SDGsと関連させながら理解する。			○
		保育にみる児童観	大人の意のままになる存在 「子ども」の発見	・子どもが保護・養育される権利をもち、尊重されるべき存在であると認識されるまでの歴史を知る。	○	
二学期期末テスト	児童福祉の理念と法規・制度	児童福祉の歴史 児童福祉の法律 児童福祉にかかわる施設	・日本の児童観の変遷と、社会環境や法制度のしくみについて理解する。 ・児童福祉法や児童福祉関連施設の概要とその役割について理解する。	○		○
	子どもの文化の意義	子どもの文化とは 子どもの文化の現状	・子どもの文化やそれを支える場が、子どもの健康で豊かな生活の実現のために果たす役割や意義を理解する。	○		○
	子どもの文化を支える場	児童文化施設 その他の施設	・近年の少子化、高度情報化の影響で、子どもや子ども文化を取り巻く環境に変化が起きていることを知り、それに伴う課題を理解する。		○	
	子どもと遊び	遊びの意義 遊びの種類と発達 遊びと玩具のかかわり 遊びの現状	・子どもの健やかな発達における遊びの重要性や意義を、おもちゃづくりなどの活動を通じて理解する。 ・子どもの遊びの内容や時間・場所・仲間などが、近年の社会の変化の影響を受けて変容していることを知り、どのような課題があるかを考える。		○	○
学年末テスト	子どもの表現活動	子どもの表現活動の意義 造形表現活動 言語表現活動 音楽・身体表現活動 情報手段などを活用した表現活動	・子どもの表現活動によって培われる能力について知り、表現活動の重要性や意義を理解する。 ・表現活動で子どもの意欲を引き出し、心身を育むための、保育者としての適切なかかわり方を理解する。	○		○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	美術史	1	3年	美術コース

使用教科書	副教材等
いちばん親切的な西洋美術史・日本美術史	プリント等

<p>科目の目標</p> <p>美術史の学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)文化遺産や美術文化について理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2)新たな美術文化を創造していく基礎となる思考力、判断力、表現力等を育成する。</p> <p>(3)伝統と文化を尊重する態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	美術の変遷などについて調査・研究し、文化遺産や美術文化について理解を深めていること(知識)
② 思考・判断・表現	それぞれの時代における美術の特質や歴史的背景などによる表現形式の違いなどを捉え、美術の歴史についての考察を深めていること。
③ 主体的に学習に取り組む態度	「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を身につけようとする意志的側面を、①粘り強さ、②学習の自己調整の視点で評価する。
評価方法	
ア・授業への取り組み イ・文化遺産や美術文化への理解 ウ・ノートやワークシートへの記述内容 エ・提出物の内容 アからエ これらを観点別に見取り総合的に評価する。	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5	バロック期 カラバッチョ ベラスケス ルーベンス <オランダ> レンブラント フェルメール	p.112～130	バロック期の文化遺産や美術作品を鑑賞、調査・研究したりする活動を通して、これら時代における美術の変遷や歴史背景などによる表現形式の違いや民族、風土、宗教などの違いによる作品の表現傾向について考えたり、作者の意図や作風やそれぞれの時代の美術の動向等について理解を深めることができる。	○		○
6 7	印象派 モネ ルノワール 後期印象派 ゴッホ ゴーギャン セザンヌ	p.164～177	印象派時代の文化遺産や美術作品を鑑賞、調査・研究したりする活動を通して、これら時代における美術の変遷や歴史背景などによる表現形式の違いや民族、風土、宗教などの違いによる作品の表現傾向について考えたり、作者の意図や作風やそれぞれの時代の美術の動向等について理解を深めることができる。	○		○
9 10 11 12	日本美術 桃山・江戸初期 江戸、中期・後期	p.118～152	日本美術、桃山時代から江戸時代の文化遺産や美術作品を鑑賞、調査・研究したりする活動を通して、これら時代における美術の変遷や歴史背景などによる表現形式の違いや風土、宗教などの違いによる作品の表現傾向について考えたり、作者の意図や作風やそれぞれの時代の美術の動向等について理解を深めることができる。	○		○
1	まとめ	参考図書 「西洋美術館(小学館) 「日本美術館」(小学館)	西洋美術史、日本美術史の学習を通し学んだことを振り返り、ワークシートにまとめることができる。 美術史新聞として展覧会に発表することができる。	○		○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	素描	5	3年	美術コース

使用教科書	副教材等
新版 基礎から身に着く はじめてのデッサン	プリント等

<p>科目の目標</p> <p>素描の学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 表現材料の特性について理解を深めるとともに、対象を深く観察して表現を工夫しながら的確に描写する基礎となる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 対象のイメージや空間を把握するための基礎となる思考力、判断力、表現力等を育成する。</p> <p>(3) 造形表現を追求する態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	素描に適した表現材料の特性を生かせるよう理解を深めていること(知識) 対象を深く観察したことを基に表現を工夫して的確に表すことができること(技能)
② 思考・判断・表現	深い観察を通して、対象のイメージや空間を把握することができること。
③ 主体的に学習に取り組む態度	「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を身につけようとする意志の側面を、①粘り強さ、②学習の自己調整の視点で評価する。
評価方法	
ア・創作への取り組み イ・仕事の丁寧さ、作品の内容 ウ・アイデアスケッチやワークシートへの記述内容 エ・提出物の内容 アからエ これらを観点別に見取り総合的に評価する。	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	静物デッサン	p.108～127	身近なものを対象として、深く観察し、均衡、律動、比例などの美的秩序を確かめ、主体的に向き合い、イメージや空間、形態などを把握し、質感などの表し方を工夫し表現できる。	○	○	○
5	スケッチ	スケッチ・ブック (プリント)	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を工夫し、個性豊かで創造的に表すことができる。	○	○	○
6 7	人物デッサン 解剖学をふまえて 骨格と筋肉	優しい美術解剖図(マー ル社)プリントを使用	解剖学をふまえ、骨格を中心に関節の把握、筋肉のつき方と動きを知ることにより人体の均衡、律動、比率を正確に描きだすことができる。	○	○	○
9 10	身近な人を描く	p.136～249	対象となる人物との関係や受ける印象をもとに発想を広げ、工夫して描く。	○	○	○
11	石膏像 胸像 ブルータス	p.180～189	石膏像(胸像)を鉛筆で描く、材料や用具についての特性を理解し、表現の意図に沿って工夫しながら、表現技法を身につけることができる。	○	○	○
12 1	静物 複合体	p.128～133	身近なものを対象として、深く観察し、均衡、律動、比例などの美的秩序を確かめ、主体的に向き合い、イメージや空間、形態などを把握し、質感などの表し方を工夫し表現できる。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	構成	5	3年	美術コース

使用教科書	副教材等
誰も教えてくれないデザインの基本	プリント等

<p>科目の目標</p> <p>構成の学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 造形的な創造活動に関わる諸要素について理解を深めるとともに、専門的な技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 造形的な表現効果を高めるための基礎となる思考力、判断力、表現力等を育成する。</p> <p>(3) 造形感覚を高めようとする態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	造形的な創造活動に関わる諸要素やその働きについて理解を深めていること(知識) 材料や用具を工夫して的確に表すことができること(技能)
② 思考・判断・表現	構成の美しさなどを考えて調和のとれた配色をしたり、材料を活用して表現効果を高めたりしていることや、対象の見方や感じ方を深めていること。
③ 主体的に学習に取り組む態度	構成の美しさなどを考えて調和のとれた配色をしたり、材料を活用して表現効果を高めたりしていることや、対象の見方や感じ方を深めていること。
評価方法	
ア・創作への取り組み イ・仕事の丁寧さ、作品の内容 ウ・アイデアスケッチやワークシートへの記述内容 エ・提出物の内容 アからエ これらを観点別に見取り総合的に評価する。	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	平面 色彩構成	chapter7	形態や色彩を吟味し効果的な使い方を考え、構造や機能の理解を深め、それらを総合的に扱い、構成の美しさなどを考えながら美的秩序を意図して構成画面をつくることができる。	○	○	○
5						
6	立体構成 モビール制作	モビールの教科書(誠文堂新光社)プリント使用	材料に触れ、材質感を感じたり、加工したりする体験を通して、表現の可能性を追求するとともに、材料と用具を活用して表現効果を高めることができる。	○	○	○
7						
9	もの派に学ぶ	もの派-再考(国立国際美術館 編集)プリント使用	形態や色彩、材料などの効果的な使い方を考え、構造や機能の理解を深め、それらを総合的に扱い、構成の美しさなどを考えながら美的秩序を意図して平面や立体などに表すことができる。	○	○	○
10	空間構成					
11	卒業制作		形態や色彩、材料などの効果的な使い方を考え、構造や機能の理解を深め、それらを総合的に扱い、構成の美しさなどを考えながら美的秩序を意図して平面や立体などに表すことができる。	○	○	○
12						
1						

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	絵画	3	3年	美術コース

使用教科書	副教材等
	プリント等

科目の目標 絵画に関する学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 表現の形式の特性について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付けるようにする。 (2) 表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。 (3) 絵画表現の可能性を迫る態度を養う。
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	絵画表現におけるそれぞれの表現形式の特性について理解を深めていること(知識) 発想や構想したことなどを基に、様々な表現方法や材料や用具などを工夫して独創的・創造的にあらわすことができること(技能)
② 思考・判断・表現	絵画表現において、専門的な知識や技能を活用し創造的に発想し構想を練ったり、作品などに対する見方や感じ方を深めたりしていること。
③ 主体的に学習に取り組む態度	「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を身につけようとする意志的側面を、①粘り強さ、②学習の自己調整の視点で評価する。

評価方法			
ア・創作への取り組み	イ・仕事の丁寧さ、作品の内容	ウ・アイデアスケッチやワークシートへの記述内容	エ・提出物の内容
アからエ これらを観点別に見取り総合的に評価する。			

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5	水彩画 風景 人物	水彩画ルールブック(日 貿出版社)プリント使用	透明水彩絵の具及び不透明水彩絵の具のそれぞれの特性と制作 の手順の違いや表現効果について理解し、紙質や地肌、絵肌など を生かした表現技法を工夫することができる。	○	○	○
6 7	古典技法学ぶ ルネッサンス期の 絵画 テンペラ技法 バロック期の絵画 グラッシュ技法	西洋美術館(小学館)プリ ントを使用	フィリッポ・リッピ作「聖母子と二天使」を題材にテンペラ画の伝統技 法とカラヴァッジョ作「バックス」を題材にグラッシュ技法を学び習得 する。 その時代特有の画材や表現方法を知り、絵具や多様な画溶液など の材料、筆やナイフなどの用具のもつ特性について理解し、自らの 主題に応じた表現方法を追求することができる。	○	○	○
9 10	自画像	やさしい美術解剖図 (マール社)プリントを使 用	自画像を描くことにより、自己を深く観察するとともに人体頭部の均 衡、律動、比例など人体の美的秩序を確かめ、主体的に対象に向 きあい描きだすことができる。	○	○	○
11 12 1 2	卒業制作		絵画の幅広い表現方法、絵具や多様な画溶液などの材料、筆や ナイフなどの用具のもつ特性について理解し、自らの主題に応じた 表現方法を追求することができる。 3年間の集大成として絵画作品を完成することができる。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	彫刻	2	3年	美術コース

使用教科書	副教材等
	プリント等

科目の目標

彫刻に関する学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
 (1) 表現の特性について理解を深めるとともに、専門的な技術を身に付けるようにする。
 (2) 表現及び鑑賞に関する思考力、判断力、表現力等を育成する。
 (3) 彫刻表現の可能性を追求する態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	彫刻表現におけるそれぞれの表現形式の特性について理解を深めていること(知識) 発想や構想したことなどを基に、様々な表現方法や用具などを工夫して独創的・創造的に表すことができること(技能)
② 思考・判断・表現	彫刻表現におけるそれぞれの専門的な知識や技能などを活用し、創造的に発想し構想を練ったり、作品などに対する見方や感じ方を深めたりしていること
③ 主体的に学習に取り組む態度	「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を身につけようとする意志的側面を、①粘り強さ、②学習の自己調整の視点で評価する。

評価方法

ア・創作への取り組み イ・仕事の丁寧さ、作品の内容 ウ・アイデアスケッチやワークシートへの記述内容 エ・提出物の内容
 アからエ これらを観点別に見取り総合的に評価する。

学習計画

月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5 6	木彫 木の性質について 面取り 粗削り	「はしもとみおの木彫り教室」 (角川書店) プリントを使用	木彫について、工程、作品、材料の理解を深める。 使用する木材の木目や硬さなどの材料の性質と、付け足したりやり直したりすることがしにくいという技法の特性を理解することができる。発想の段階においてアイデアスケッチや簡単な形を作りながら主題を生成し、表現の意図を明確に把握しながら、完成に至る確かな計画と見通しをもって制作を進め、表現を追求することができる。	○	○	○
7	鑑賞 彫刻家 三沢厚彦 「三沢厚彦の彫刻表現に学ぶ。」	「ANIMALS」 misawa atsubiko プリントを使用	彫刻家・三沢厚彦の作品と制作過程を鑑賞することで、主として使用する木材について木目や硬さなどの材料の性質と木彫技法の特性を理解する。木への着彩を含めた作品の特徴や表現技法の工夫等に気付き、作品のよさや美しさを感じ取り、作者の意図や心情について考え、感性を磨き、見方や感じ方を深めることができる。	○		○
9 10	木彫仕上げ 着彩	高村光雲全集(後援支援文庫) 「ANIMALS」三沢厚彦 (千葉市美術館 展覧会図録) プリントを使用	粗削りした状態から丸み出しをしながらモデルを削り出す、細部の仕上げまでできる。 木彫を完成させ、着彩を施し、木彫作品の完成までを学ぶ。	○	○	○
11 12 1	卒業制作		塑造であれば、主として使用する粘土や石膏などについて、可塑性や固まり方などの材料の性質や、形態や大きさ、削ったり付け足したりすることの自由度が比較的高いという特性を生かして、主題を明確に把握しながら、制作方法を十分検討し、創意工夫や試行錯誤を繰り返しつつ、表現を追求することができる。 彫像であれば、使用する木材の木目や硬さなどの材料の性質と、付け足したりやり直したりすることがしにくいという技法の特性を理解することができる。発想の段階においてアイデアスケッチや簡単な形を作りながら主題を生成し、表現の意図を明確に把握しながら、完成に至る確かな計画と見通しをもって制作を進め、表現を追求することができる。 3年間の集大成として作品を完成することができる。	○	○	○